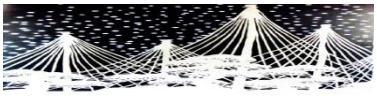

平成 26 年 12 月 14 日

里山の冬支度

NPO 四季の森里山研究会

尾崎・手島・大塚・谷川

日照時間が変わり気温も低くなってくると、人々は冬用の服に着替えたり重ね着をしたりして寒さを防ぐ工夫をしますが、自然界の生き物たちは、いつごろから、どんな冬支度をしてきているのでしょうか。

植物の冬芽やロゼット、夏に活動していた昆虫たちの「命のバトンリレー」の様子や越冬の様子を観察するとともに、逆に、この寒い冬の時季を活動の舞台にしている生き物たちの様子についても観察してみましょう。

☆昔から続く人々の冬支度

ガスや電気のなかった時代と現在

・ストーブや薪の準備と寒さ対策　・芝刈り、落ち葉を使った苗床づくり　・生活の工夫

☆植物の冬支度

木々は冬の寒さを凌ぐとともに、次の春を迎えるため、冬芽(フユメ)に様々な工夫をしている。

1 冬芽の種類

・鱗芽(リンガ)・・・春に芽吹く若葉の元となる部分が芽鱗(ガリン)と呼ばれるものでおおわれている。魚の鱗のようもの、毛皮に包まれたもの、硬い皮のようなものなどがある。

ガマズミ、コブシ、ヤマグワ、ミズキ、コナラ、シラカシ、サンシュユ、トチノキ　。。など

・裸芽(ラガ)・・・・　若葉の元になる部分が芽鱗(ガリン)におおわれてなくて、毛などが生えているもの。

ムラサキシキブ、アジサイ、アカメガシワ　。。など

・隠芽(インガ)・・・　冬芽が葉痕(ヨウコン)や樹皮の中に隠れているもの。

ネムノキ、ニセアカシア。。など

2 ロゼット

前年の終わりに発芽し、冬を越して春から成長する越年草のなかまに、この形をとるものが多い。寒さや乾燥を防ぎ、地面に広く葉を広げることで光を多く受けられるようにしている。

☆動物の冬支度

小動物は、寒さを避けて移動したり、地中に潜ったりして冬をやり過ごします。昆虫は成虫のまま冬越しするために集団になるものや、スズメバチのメスのように単独で冬越しをするもの。卵や幼虫、さなぎで冬越しをするものなど様々です。しかし、この寒い時期に　繁殖をするフユシャクガの仲間もいるのです。生き物の「命のバトンリレー」の様子を観察してみましょう。

・卵で越冬　(カマキリの卵のうは木の枝などに、イナゴやコオロギは地中に卵を産む。)

・幼虫で越冬(セミ、カナブン、カブトムシ、コナラゾウムシなど、越冬年数に違いがある)

・さなぎで越冬(モンシロチョウ、アゲハチョウ、スズメガなど越冬場所に違いがある。)

・成虫で越冬(テントウムシ、ヨコヅナサシガメ、フユシャクガ、スズメバチ、キタテハ、など)

コブシの冬芽

タンポポのロゼット

カマキリの卵のう

アゲハチョウ

カブトムシの幼虫

ヨコヅナサシガメ

フユシャクガ

(　次回の自然観察会「冬の雑木林を歩く」 は１月１１日(日)に開催の予定です。)